

第17回夢アイデア

つなぐ

— 小学校と地域の新しい関係 —

背景

まちづくりにおいて行われる政策は様々であるが、そこにある課題は常に一貫しています。とりわけ、「住民の地域に対する愛着・関心の希薄化」は、まちづくりの大きな課題の一つです。子どもたちは学校へ通いますが、ゲームやネットなどの飛躍的な発展・普及により放課後に外で遊ぶことは少なくなりました。そんな彼らが成長し、自分の生まれ育った地域に愛着を持ちまちづくりに参加するなど、到底期待できるものではなくなってしまったのです。しかし、まちは行政がつくるものでも、建築家がつくるものでもありません。これからの未来を担う子どもたちが自分たちの育ったまちを誇りに思い地域と強くつながること、これがまちづくりの一番の近道だと考え、まち・ひと・れきしをつなぐための仕掛けとして、地域に愛される小学校の計画を行いました。子供を中心に据えた学校と地域を“つなぐ”この小学校はもはや単なる教育の場ではなく、この地域の核となる地域住民の学び舎になります。

提案概要

対象とした敷地は、農村時代、農道によって町をつなげ、戦後、急激な人口増加と共に闇市や商店の発達によるベニスマーケットを創り出しました。それは町の個性でありリビングのように町をつなげました。これからの小学校は地域のつながり、それらを共有・継承し続ける空間づくりが必要と考えます。

提案内容

①まち・ひと・れきしを“つなぐ”ための仕掛けを建物の随所に計画し、児童だけでなく、地域のみんなに愛される学校を目指します。

- ・地域と歴史と“つながる”地上階
- ・児童が“つながる”中間階
- ・自然と社会が“つながる”屋上
- ・地域と“つながる”吹抜空間と地域開放ギャラリー
- ・行事と“つながる”屋外空間

②築いた歴史を大切に、地域の核として文化の発信拠点を目指します。

- ・住民が立ち寄れる外部空間
- ・校歴や郷土資料・地域産業情報を展示できる情報発信の場。

③地域に親しみのあるカタチを取り入れ、セットバック、壁面の分節化等、周辺に優しい建物を目指します。

- ・農道の網目のようにつながりある空間構成
- ・ベニスマーケットを彷彿させるトントン葺
- ・記念樹を保存し、緑化ルーバーによる潤いのある景観形成

スペースや仕掛けと“つながり”による効用。効果

ワークスペースとつながり、独立性も確保した普通教室

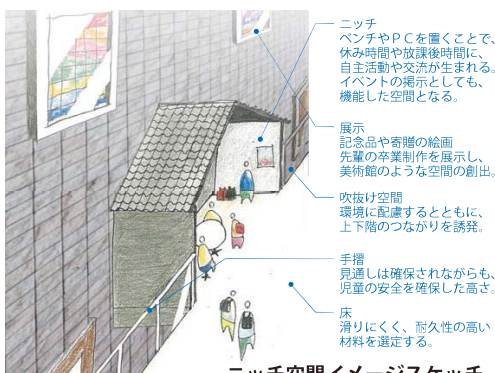
- 普通教室は、ワークスペースでもある廊下との間仕切りは、腰以上ガラス窓とし、独立性と相互のつながりを両立させます。
- ワークスペースとつながると、校舎全てが学習スペースとなり、様々な活動がいろいろな場所で行われる活気ある豊かな空間となるよう、大小多様な居場所を計画します。
- また、ワークテラス（バルコニー）を外周部に止めどなく整備し、教室には底効果で快適な環境を与え、校舎全てに回遊性を持たせた楽しくもあり、防犯にも寄与した計画とします。

地域とつなげる「吹抜空間」と「地域開放ギャラリー」

- 教室側の壁には、作品等の展示棚を設置し、在籍する児童の作品を展示します。また、屋内運動場側の広い壁には、歴史ある旧校舎の先輩が残した記念品や寄贈の絵画、卒業制作を展示し、校舎が美術館のようにワクワクする楽しい空間を提案します。
- また、その1階は、地域開放エリアとなり、郷土資料や地域情報発信の場となり、地域と学校をつなぐ新たな拠点に、寄与します。

上下階をつなげる「吹抜空間」と「ニッチ」

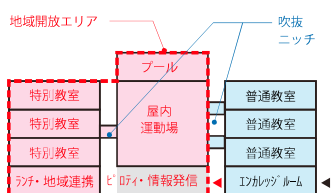
- 上下のワークスペースをつなげる吹抜は、無風時も換気を促進し、ナイトバーでも可能な計画とします。
- 部分的に活動拠点となる「ニッチ」を設置し、気軽にコミュニケーションが誘発される仕掛けを提案します。



ニッチ空間イメージスケッチ

地域活動の拠点としての機能性・快適性

築いた歴史を大切に、地域の核として文化の発信拠点・積極的な地域開放を目指します。



明確な地域開放区分

- 住民が立ち寄れる外部空間や、校歴や郷土資料・地域産業情報を展示できる情報発信の場を設けることで、地域とつなぐ場として計画します。
- 開放エリアと非開放エリアを明確に区分すること、また、開放玄関が視認しやすい位置に主室を配置することで、防犯性が高く管理のしやすい施設を実現します。
- 地域開放時は、屋外トイレや屋内運動場のトイレや更衣室が利用可能な快適な計画とします。
- 職員室を校庭に面して配置し、見通しの良い死角の少ない屋外空間として防犯性に寄与します。

周辺の環境及び既存樹木に配慮した配置・植栽計画

地域性との“つなぐ”を大切にデザインします。

- 農道の網目のように、つながりある空間構成とします。ベニスマーケットを彷彿させる「トントン葺き」や、善養寺などの歴史や伝統を取り入れながらも、景観・環境に配慮した外観デザインを取り入れます。
- 住宅街の生活感に調和した分節させた圧迫感のない立面をデザインします。

記念樹を保存し、潤い景観を形成します。

- 校舎は道路・近隣住宅から十分な隔離を取り、周辺は既存樹等の利用やファサードに緑化ルーバーの採用で潤いある景観を形成します。

- 創立時イチョウを保存し、ヒマラヤスギは、デッキやチップへと姿を変え校舎に癒しの空間を創出させます。

日影・騒音・砂埃、近隣の環境への配慮を徹底

- 北側近隣への日影を現況日影より、改善します。
- 屋内運動場・プールは建物で包括するよう配置し、近隣への騒音を抑制します。
- 周囲の既存樹木や散水栓を完備し、砂塵飛散の防止に寄与した整備とします。



地域側立面イメージ

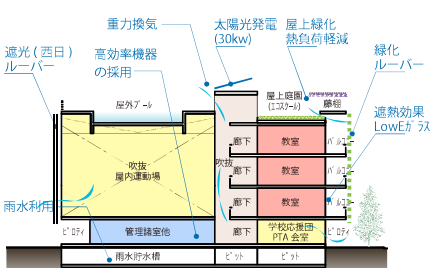
まち並みに馴染むよう、勾配屋根及び壁面の分節化を提案します。また、大きな吹抜け空間やニッチ・ワークスペースなどを効果的に活用して、回遊性があり、安全で楽しく、活気ある、地域に愛される校舎を提案します。



グラウンドとつながりのある校舎を提案します。東側立面では、既存樹木を保存しながら、潤いある景観で、地域に調和します。

環境・省エネへの配慮と災害対策

自然を学ぶ「エコスクール」



光スクール	風スクール	水スクール	全電化スクール
・自然採光を最大限利用 ・ルーバーによる日射抑制 ・熱負荷の抑制 ・効果的な植栽配置	・煙突効果による空気流れ ・風通しの良い快適な空間 ・サッシ外を利用した外気導入	・雨水の中水利用 ・節水衛生器具の採用	・太陽光パネル ・災害時の復旧の早さ ・BEMSによる視認

- その他の対策**
- レイアウトで出来ること
 - 避難所となる屋内運動場2階に設置
 - 屋内運動場に近接して、物資・資機材庫を設置
 - 更衣ベースを設け、女性トイレを守る
 - 構造で出来ること
 - 構造重要度係数を1.3（通常は1.25）
 - 非構造部材や天井・設備機器等の耐震性（落下防止）を確保
 - インフラで出来ること
 - 受水槽を屋上に設置
 - 湧水槽を汚水槽に転用
 - 蓄電型太陽光発電システムの活用
情報収集用の7ch、5ch、10ch電源、携帯電話等の充電サービスに対応
 - 可搬型の非常用発電機（72時間運転可能）を屋上に設置
 - 他
 - 避難場所の「グラウンド」を極力芝生化し、直産りスペースを広く確保
 - 校庭照明の整備
 - かまどベンチの設置

自治体の防災計画と連携し、児童と地域の安心を支えます

- 水害に対しては、自治体が定める「防災計画」の予想を超える高さで、屋内運動場を設置し、地域防災拠点として維持機能する施設にします。
- 蓄電型太陽光発電や非常用発電機を屋上に設置し、災害時の電気容量を確保します。
- 屋内運動場に情報通信設備を複数個所設置し、地域拠点間の双方向で通信手段を確保します。
- また、給食室を隣接して配置し、炊出し（70℃以上）可能とします。災害時の生活用水やマンホールトイレなどに有効的に活用できるよう、プール及び貯水槽を設置し、災害時の生活用水とします。
- 全電化スクールとすることで、災害時の素早い復旧※が可能となります。
※大災害時、市内全域が90%の復旧に要した日数：電気7日、水30日、ガス60日

